

中学校・道徳の内容項目の解説

勤労・奉仕・公共の福祉

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。	勤労・奉仕・ 公共の福祉

●解説

全体的な理解	勤労は、人間生活を成立させる基本的な要件であり、一人一人がその尊さやその意義を理解し、公共の福祉と社会生活の発展・向上に貢献することが求められている。勤労には自らの目的を実現するために働くという面もあるが、職業のように、個人の生活を維持し、自分の幸福を追求するためと同時に、社会的分業によって社会を大きく支えている面もあり、共に重要である。勤労や奉仕を通して社会に貢献するということが自覚し、充実した生き方を追求し実現していくことが、一人一人の真の幸福につながっていくことともなる。
発達的な観点	中学生は、自分の目的を実現するためや、気の合った仲間と一緒にする仕事には意欲的に取り組むが、共同で行う仕事や集団での仕事などについては、これを厭う傾向も少なくない。自分の進路や職業について関心が高くなっていくこの時期に、勤労の尊さや意義について考えられるようにするとともに、働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てることや公共の福祉に努めようとする態度を育てることが大切である。
指導の着眼点	指導に当たっては、勤労の尊さを重んじる生き方を基に、奉仕の精神をもって自ら進んで、それを実践しようとする態度を培うことが大切である。その際、社会への奉仕に伴う喜びが自らの充実感として生徒一人一人に体得され、心から満足でき、生きがいのある人生を実現しようとする意欲にまで高めることを忘れてはならない。このような指導を通して、個人の立場を越えた社会全体の利益を大切にすると、公私の別を明らかにして、自分のできることを自覚し公共の福祉のために尽くそうとする態度の育成が望まれる。また、職場体験活動やボランティア活動、福祉体験活動などの体験活動を生かすなど指導の工夫が求められる。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
低学年	(2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。 勤労
中学年	(2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 勤労
高学年	(4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。 勤労・奉仕